

タイトル： 『女神』の登場成るか？米国大統領選に思う

戦後世代の私たちが体験した、初めての「息苦しかった2020年」があと少しで終わります。しかし、この「重苦しさ」のゴールはまだ見えていません。

しかし混迷を深めた米国大統領選の後、ひさびさに清々しい演説を聴きました。世界の、自由と成功ドリームの「憧れ」だったはずの米国。その米国が公正な選挙監視団を必要とするほど、分裂懐疑的な三流国に落ち込んでしまった、信じられません。

そんな中、フェニクスのような女神がちゃんと出てくること、それを涙ながらに歓迎する大衆がいること、それがアメリカの底力だと思います。

それは民主党副大統領候補、勝利を確信した後の演説での、カマラ・ハリスさんの穏やかで、説得力のある「ことば」でした。

この4年間はトランプ現大統領が手法として使った、フェイクニュースや Post Truth というような alternative fact（あからさまに事実と異なることを、一方の事実とみなす反知主義による事実認定技法）の大旋風が起き、国民を統一や融和でなく、分断と憎悪の種を植え付けることで、自国だけでなく世界をも混乱させました。

4年の間に強固にできあがってしまった国民の利害と分断、それを溶かして再統合していくにはどうすべきか。そんな国家再建への難しい第一歩は、やはり『女神』の登場だ、と感じさせる演説でした。

使い古された政治家らしい言葉も使いながら、その中でグッときたのは「全米の小さな女の子たち」に向けて発せられたメッセージでした。

「あなたたちの未来には、不可能ということはない」「私のように・・・」として、自分の血筋を紹介し（誰もが既に知っていたことでしたが）、「副大統領に私が、女性として、そして移民の子孫として、最初にこの地位に就きます。そして、私は最後ではありません」・・・うまいです。グッときます。サーっと未来が開けていくように感じました。地球の裏側にいても久々の正義を見たように感じるのですから、支持した国民や少女たちは、どれだけの明るい未来予測をもらったことでしょう。

カマラ・ハリスさんは、ジャマイカ系の黒人を父に、インド人母に持ち、どちらも移民の非白人でした。彼女沢山の才能に恵まれたとしても、現在までにどれほどの努力を積み上げてきたかは測り知れず、言葉にできないほどの道程であったに違いありません。

思えば21世紀、各国はそれぞれ事情は違いながらもテロ・戦争・脅迫の中で分断と対立・憎悪が進みました。第二次世界大戦で払った多くの犠牲により、払拭したはずの辺境ナショナリズムや人種差別、経済格差が根源に顔を出してきました。現代、人類は正義と道を見失いつつあるように思われます。

オバマ前大統領の広島演説を最後に、しばらく力強い「政治の言葉」は見失われ、このコロナ禍を迎えてからはドイツのメルケル首相やニュージーランド、アーダン首相の国民向け演説が光ったくらいで、他にはほぼ「真心：誠」の言葉を耳にしなくなりました。

我が国も官民挙げて「今だけ、自分（身内）だけ、金だけ」の論理が横行し、〇〇ファーストの合言葉に乗せられて「正義より損得」が道理になってしまいました。

「こんな人たちに負けるわけにはいかないんです」は、立派な分断形成の方式であり米国と同様、人々の生活の中に SNS を通じて、感情的な分断が生じました。大きな裂け目です、俄かには融和しそうもありません。日本での「女性活躍」は数を揃えることばかりで、男の支配を支えるような女性が都合よく利用されており、真の女性の女神が活躍して答えを出せる体制には程遠いです。『女神』が現れる土壌が育っていないように思われます。

一方、女神が率いる日も近い米国ですが、現在のトランプ大統領を指示した国民が、まだ七千数百万人もいたことは事実です。分断や憎悪は、トランプが作ったのではなく、「自由・平等と民主主義」が、必ずしも米国で大勢ではないこと、本来底流にあって露見しなかった人々の心の闇が、むしろドナルド・トランプを掘り出し、前回大統領選でヒラリーの予想外の敗北に繋がったと思えます。

今回、かろうじて民主党が勝利したようですが、まだまだ女神が『正義』を取り戻すには大きな壁がありそうです。

しかし、米国政治が専門のジャーナリスト北丸雄二さんは次のように話していました。米国のミレニウム世代、つまり10代までの若者は、生まれてから冷戦時代も知らなければ、イラク戦争もしっかり見据えたわけではなく、思春期はオバマ大統領のアメリカで育った。それゆえ彼らは、自然と「人権・環境意識、反差別」が根付いている。そういう意味で現在の分断が終わった後の新しい時代は、若者に期待が持てるのだ、と。

ヨーロッパでもナチズムの温床や復活の芽がでてきそうな状況の中、米国の次の20年が、そういうミレニウム世代によって率いられるならば、人類としてはわずかな希望の灯を感じます。

さて、日本国の私たちは、世界を覆った新型コロナから何を学んだのでしょうか？心情や価値観としてただ昭和20年以前に戻っていくのならば、どんどん世界の正義と乖離していくように思えてなりません。